

(1) 会員の異動状況

(2) 会 議 に 関 す る 事 項

<u>平成23年度第3回</u>		平成23年6月24日（金）
		TKP名古屋ビジネスセンター 7F『会議室7B』
議 事	(1)	前回議事録・議事要録確認の件
	(2)	第20回基礎学術集会の件
	(3)	第55回総会・学術集会の件
	(4)	第21回基礎学術集会の件
	(5)	会務分担と各種委員会委員の調整
	(6)	平成23年度各種委員会活動方針ならびに予算案の件
	(7)	各種委員会報告の件

- (8) 会費滞納者除名に関する件
- (9) 新入会員・退会会員の件
- (10) 一般社団法人化の件
- (11) その他

平成23年度第4回 平成23年10月5日(水)

ハイアットリージェンシー東京 B1F 『白鳳』

- | | |
|-----|--------------------|
| 議 事 | (1) 前回議事録・議事要録確認の件 |
| | (2) 第20回基礎学術集会の件 |
| | (3) 第55回総会・学術集会の件 |
| | (4) 第21回基礎学術集会の件 |
| | (5) 第54回総会・学術集会の件 |
| | (6) 平成23年度会計中間報告の件 |
| | (7) 各種委員会報告の件 |
| | (8) 専門医統括会議からの報告 |
| | (9) 新入会員・退会会員の件 |
| | (10) 一般社団法人移行について |
| | (11) その他 |

平成23年度第5回 平成24年2月17日(金)

八重洲富士屋ホテル 3F 『紅葉』

- | | |
|-----|----------------------------------|
| 議 事 | (1) 前回議事録・議事要録確認の件 |
| | (2) 第20回基礎学術集会の件 |
| | (3) 第55回総会・学術集会の件 |
| | (4) 第21回基礎学術集会の件 |
| | (5) 第56回総会・学術集会の件 |
| | (6) 平成23年度収支見込決算ならびに平成24年度予算大綱の件 |
| | (7) 各種委員会報告の件 |
| | (8) 専門医統括会議からの報告 |
| | (9) 名誉会員推戴に関する件 |
| | (10) 代議員(評議員)選挙管理委員会設置に関する件 |
| | (11) 会費滞納者除名に関する件 |
| | (12) 新入会員・退会会員の件 |
| | (13) 一般社団法人移行について |
| | (14) その他 |

平成23年度第6回 平成24年4月10日(火)

ホテルニューオータニ 1F 『e d o ROOM』

- | | |
|-----|---------------------------------|
| 議 事 | (1) 前回議事録・議事要録確認の件 |
| | (2) 第55回総会・学術集会の件 |
| | (3) 第56回総会・学術集会の件 |
| | (4) 第57回総会・学術集会の件 |
| | (5) 第21回基礎学術集会の件 |
| | (6) 第22回基礎学術集会の件 |
| | (7) 第23回基礎学術集会の件 |
| | (8) 平成23年度会計決算報告ならびに平成24年度予算案の件 |
| | (9) 名誉会員等推戴に関する件 |
| | (10) 各種委員会報告の件 |

- (1 2) 選挙管理委員会委員選出の件
- (1 2) 日韓形成外科学会の件
- (1 3) 日中形成外科学会の件
- (1 4) 会費滞納者除名に関する件
- (1 5) 新入会員・退会会員の件
- (1 6) 評議員提出議題の件
- (1 7) その他

2. 評 議 員 会

平成23年度定例評議員会 平成23年4月12日（火）

ホテルクレメント徳島 3F『金扇』

- | | |
|-----|--|
| 議 事 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成22年度年次報告の件 (2) 平成22年度収支決算の件 (3) 第57回（次々々期）総会・学術集会会長候補者選出の件 (4) 第23回（次々々期）基礎学術集会会長候補者選出の件 (5) 次期役員（理事・監事）候補者選出の件 (6) 平成23年度事業計画の件 (7) 平成23年度収支予算の件 (8) 次期専門医認定委員選出の件 (9) 定款、定款細則、評議員選挙施行細則、ならびに専門医制度細則に関する件 (10) 名誉会員推戴の件 (11) 第54回総会・学術集会の件 (12) 第55回（次期）総会・学術集会の件 (13) 第56回（次々期）総会・学術集会の件 (14) 第20回基礎学術集会の件 (15) 第21回（次期）基礎学術集会の件 (16) 第22回（次々期）基礎学術集会の件 (17) 日韓形成外科学会の件 (18) 日中形成外科学会の件 (19) 会費滞納者除名の件 (20) 評議員提出議題の件 (21) その他 |
|-----|--|

3. 総 会

平成23年度通常総会 平成23年4月14日（木）

あわぎんホール 1F『第1会場(大ホール)』

- | | |
|-----|--|
| 議 事 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成22年度年次報告の件 (2) 平成22年度収支決算の件 (3) 平成23年度事業計画の件 (4) 平成23年度収支予算の件 (5) 定款、定款細則、評議員選挙施行細則、ならびに専門医制度細則に関する件 (6) 名誉会員承認の件 (7) 第54回 総会・学術集会の件 (8) 第55回（次期）総会・学術集会の件 (9) 第56回（次々期）総会・学術集会の件 (10) 第57回（次々々期）総会・学術集会会長候補者承認の件 |
|-----|--|

- (11) 第20回 基礎学術集会の件
- (12) 第21回(次期) 基礎学術集会の件
- (13) 第22回(次々期) 基礎学術集会の件
- (14) 第23回(次々々期) 基礎学術集会会長候補者承認の件
- (15) 次期役員(理事・監事) 候補者選出の件
- (16) 次期専門医認定委員承認の件
- (17) 日韓形成外科学会の件
- (18) 日中形成外科学会の件
- (19) 会費滞納者除名の件
- (20) 評議員提出議題の件
- (21) その他

II 事業報告

(1) 第54回日本形成外科学会総会・学術集会

会 期：平成23年4月13日(水)、14日(木)、15日(金)

会 場：あわぎんホール・ホテルクレメント徳島

会 長：中西 秀樹 徳島大学医学部形成外科学教室

下記の日本形成外科学会特別講演、招待講演、教育講演、
ガイドラインシンポジウム、パネルディスカッションが行われた。

【特別講演】 第1日 4月13日(水)

司会 長崎大学形成外科 平野 明喜

『日米の大学、企業における研究環境の違い』

ー青色発光デバイスの研究を通じてー』

カリフォルニア大学サンタバーバラ校 中村 修二

【招待講演Ⅰ】 第1日 4月13日(水)

司会 帝京大学形成外科 平林 慎一

『Advances in Plastic and

Reconstructive Surgery using Acellular Dermal Matrices』

Associate Professor of Surgery, University of

Maryland School of Medicine, Baltimore, Maryland Ronald P. Silverman

【招待講演Ⅱ】 第2日 4月14日(木)

司会 北里大学形成外科 内沼 栄樹

『Simultaneous Facelift and Fat Grafting: Combined Lifting

and Filling for Rejuvenation of the Aging Face』

Marten Clinic of Plastic Surgery,

San Francisco, California Timothy J Marten

【招待講演Ⅲ】 第3日 4月15日(金)

司会 埼玉医科大学形成外科 中塚 貴志

『Challenges and Innovation in Head and Neck Reconstruction』

University of Toronto, Canada;

Chief editor of JPRAS Stefan O.P. Hofer

【教育講演Ⅰ】	第1日	4月13日(水)	司会	京都大学形成外科	鈴木	茂彦
				大分大学形成外科	木股	敬裕
			『色素斑のダーモスコピー診断ーメラノーマを見逃さないためにー』			
				東京女子医科大学東医療センター皮膚科	田中	勝
			『色素細胞性腫瘍及び それとの鑑別が問題となる皮膚腫瘍性病変の病理診断』			
				日本医科大学皮膚科	安齋	眞一
【教育講演Ⅱ】	第2日	4月14日(木)	司会	金沢大学形成外科	川上	重彦
				旭川医科大学循環・呼吸・腫瘍病態外科	笹嶋	唯博
【教育講演Ⅲ】	第3日	4月15日(金)	司会	久留米大学形成外科・顎顔面外科	清川	兼輔
				東京北社会保険病院臨床研修センター	名郷	直樹
【教育講演Ⅳ】	第3日	4月15日(金)	司会	東京慈恵会医科大学形成外科	内田	満
				せきぐちクリニック	関口	順輔
			『レセプト審査の現状と保健診療Q&A』			
				千葉県こども病院	宇田川	晃一
			『外保連の概要と現状』			
				東邦大学医療センター大橋病院	大西	清
			『先進医療・高度医療の現状』			
				国立成育医療センター	金子	剛
【ガイドラインシンポジウムⅠ】	第1日	4月13日(水)	司会	北海道大学形成外科	山本	有平
				徳島大学形成外科	橋本	一郎
			『皮膚軟部腫瘍』			
				宝塚市立病院	黒川	正人
				防衛医科大学校	清澤	智晴
				埼玉医科大学国際医療センター	堤田	新
				浜松医科大学	深水	秀一
				愛媛大学	中岡	啓喜
				熊本大学	石原	剛
【ガイドラインシンポジウムⅡ】	第1日	4月13日(水)	司会	神戸大学形成外科	寺師	浩人
				順天堂大学形成外科	水野	博司
			『糖尿病性腫瘍』			
				順天堂大学	水野	博司

府中病院	原岡 剛一
市立札幌病院	堀内 勝己
トヨタ記念病院	岡本 泰岳
杏林大学	辻 直子
名古屋大学	蛭沢 克己
中部ろうさい病院	加藤 友紀

【ガイドラインシンポジウムⅢ】

第2日 4月14日（木）

司会 昭和大学形成外科
信州大学形成外科

土佐 泰祥
杠 俊介

『口唇裂の診断と治療』

都立小児総合医療センター
昭和大学
信州大学
横浜市立大学
徳島大学

玉田 一敬
土佐 泰祥
杠 俊介
長西 裕樹
清家 卓也

【ガイドラインシンポジウムⅣ】

第3日 4月15日（金）

司会 昭和大学形成外科
北里大学形成外科・美容外科

土佐 泰祥
瀬崎晃一郎

『口蓋裂の診断と治療』

埼玉医科大学
京都大学
旭川厚生病院
大阪医科大学
北里大学

時岡 一幸
河合 勝也
皆川 知広
大場 創介
瀬崎晃一郎

【ガイドラインシンポジウムⅤ】

第3日 4月15日（金）

司会 東京医科大学八王子医療センター形成外科
東京慈恵会医科大学形成外科

菅又 章
二ノ宮邦稔

『下顎骨骨折の診断と治療』

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
徳島大学
日本医科大学武蔵小杉病院
近畿大学
慈恵会医科大学第三病院
日本医科大学

安藤 和正
松尾 伸二
村上 正洋
諸富 公昭
二ノ宮邦稔
副島 一孝

【パネルディスカッションⅠ】

第1日 4月13日（水）

『リンパ浮腫治療の最前線』

司会 東邦大学形成外科
香川大学形成外科

丸山 優
田中 嘉雄

特別発言 徳島大学名誉教授 心臓血管外科

加藤 逸夫

- PI-1 原発性リンパ浮腫の全国疫学調査ー原発性リンパ浮腫の克服を目指してー
旭川医科大学循環・呼吸・腫瘍病態外科 齊藤 幸裕
- PI-2 両端針付きナイロン縫合糸を用いた

Untied Stay Suture 法によるリンパ管静脈吻合術

岡山大学形成再建外科 長谷川健二郎

- PI-3 ICG蛍光リンパ管造影による
dermal lymphatic back-flow を標的としたリンパ管静脈移植術
北海道大学形成外科 古川 洋志
- PI-4 リンパ浮腫治療の最前線ーリンパ管静脈吻合術の適応、
吻合部長期開存、理学療法との関係についてー
横浜市立大学附属病院形成外科 前川 二郎
- PI-5 現存するリンパ管機能の温存を考慮したリンパ管
ー静脈吻合(LVA)手技について
久留米大学形成外科・顎顔面外科 井上要二郎
- PI-6 リンパ浮腫における外科的治療法の進歩
東京大学形成外科 光嶋 勲
- PI-7 リンパ浮腫の保存的治療
医療法人リムズ徳島クリニック 小川 佳宏

【パネルディスカッションⅡ】 第2日 4月14日(木)

『美容外科のUp-to-date』

司会 昭和大学形成外科 保阪 善昭
神戸大学形成外科 田原 真也

- PⅡ-1 Minimal invasive aesthetic surgery
ソウル大学 張 学
- PⅡ-2 シワ・タルミ：患者が求める即効性注射治療
湘南鎌倉総合病院形成外科・美容外科 山下 理絵
- PⅡ-3 Aesthetic Facial Bone Contouring Surgery の Up to Date
ー小顔作りを目指してー
(医)クリニカ市ヶ谷 片倉 優
- PⅡ-4 美容外科のUp-to-date：国公立大学病院における抗加齢医療
ー整容・美容外科
北海道大学形成外科 山本 有平
- PⅡ-5 脂肪移植のUp-to-date
東京大学形成外科 吉村浩太郎
- PⅡ-6 難治性 acne scar への自家栽培表皮による治療
医療法人矢永クリニック・組織再生研究所 矢永 博子
- PⅡ-7 新しい概念のMimetic Muscle Extended Forehead lift (MMEF)
(表情筋操作だけによるForehead lift)
クリニック宇津木流 宇津木龍一

【パネルディスカッションⅢ】 第3日 4月15日(金)

『乳房再建 一期的再建と二期的再建』

司会 大阪大学形成外科 細川 亙
福岡大学形成外科 大慈弥裕之

- PⅢ-1 乳房温存手術後の乳房再建術 一期的再建と二期的再建
横浜市立大学附属市民総合医療センター形成外科 佐武 利彦
- PⅢ-2 乳癌術後の再建一期的か二期的か？
国際医療福祉大学 酒井 成身

- PⅢ-3 乳房再建：1 期的再建と 2 期的再建－乳房再建の普及を目指して－
慈恵医科大学柏病院形成外科 武石 明精
- PⅢ-4 乳房 1 次再建と 2 次再建の利点と欠点－大学病院での乳房再建
埼玉医科大学総合医療センター形成外科・美容外科 三鍋 俊春
- PⅢ-5 一期的乳房再建術の再建 strategy
大阪大学形成外科 矢野 健二
- PⅢ-6 当科における乳房一期再建；患者の術式選択と術後満足度・QOL
杏林大学形成外科 辻 直子
- PⅢ-7 一期再建は誰がやるべきか？人工物による一期再建の検討
医療法人社団ブレストサージャリークリニック 岩平 佳子
- PⅢ-8 遊離腹直筋皮弁での二期的乳房再建における三次元形状計測装置の応用
－美的マウンド再建を目指して－
福岡大学形成外科 大慈弥裕之
- PⅢ-9 乳房温存手術と乳房再建術(一期的再建と二期的再建)
乳癌手術において整容性と根治性を両立するための工夫
徳島大学胸部・内分泌・腫瘍外科 丹黒 章

(2) 第 20 回日本形成外科学会基礎学術集会

会 期：平成 22 年 10 月 6 日（木）、7 日（金）

会 場：ハイアットリージェンシー東京

会 長：渡辺 克益 東京医科大学形成外科学講座

下記の特別講演、サテライトセッション、教育シンポジウム、シンポジウム、パネルディスカッション、特別セッション、ガイドラインシンポジウムが行われた。

【特別講演 1】 第 1 日 10 月 6 日（木）

司会 福島県立医科大学形成外科 上田 和毅

『iPS 細胞を用いた心臓病の病態解明と難治性心不全に対する治療戦略』

慶應義塾大学循環器内科 福田 恵一

【特別講演 2】 第 2 日 10 月 7 日（金）

司会 東京医科大学形成外科 渡辺 克益

『伝統（ベーシック）こそ新しい

～オー・ボン・ビュー・タンのパティシエ魂～』

パティスリー・オー・ボン・ビュー・タン 河田 勝彦

【サテライトセッション】 第 1 日 10 月 6 日（木）

司会 独立行政法人国立育成医療研究センター形成外科 金子 剛

『医療イノベーションについての厚生労働省の取り組み』

厚生労働省医薬食品局審査管理課 宮田 俊男

【教育シンポジウム 1】 第 1 日 10 月 6 日（木）

『やさしくわかる基礎研究 1』

司会 慶應義塾大学形成外科 貴志 和生

神戸大学形成外科 寺師 浩人

- 1-2 やさしい分子生物学：3次元的に標的物質を視る
慶應義塾大学形成外科 久保田義顕
大阪大学形成外科 坂井 靖夫

【教育シンポジウム2】 第2日 10月7日（金）
『やさしくわかる基礎研究2』

- 司会 京都大学形成外科 鈴木 茂彦
東北大学形成外科 館 正弘
- 2-1 細胞の“分離”、“解析”と“移植”の研究手技
東京大学形成外科 吉村浩太郎
- 2-2 遺伝子導入・遺伝子改変動物を用いた研究
独立行政法人国立育成医療研究センター研究所
再生医療センター 梅澤 明弘
- 2-3 統計の基本と統計ソフトウェア
日本医科大学千葉北総病院医療情報室 秋元 正宇

【シンポジウム1】 第2日 10月7日（金）
『炎症的側面と腫瘍的側面を持つケロイド・
肥厚性瘢痕研究の総合的アプローチ』

- 司会 長崎大学形成外科 秋田 定伯
東京医科大学形成外科 松村 一
- S1-1 当科における肥厚性瘢痕・
ケロイドの評価と治療の判断・選択基準について
久留米大学形成外科・顎顔面外科 古賀 憲幸
- S1-2 腫瘍的側面からみたケロイド・肥厚性瘢痕の病態解明へのアプローチ
京都大学形成外科 山脇 聖子
- S1-3 ケロイド・肥厚性瘢痕形成時における炎症細胞の検討
慶應義塾大学形成外科 坂本 好昭
- S1-4 肥厚性瘢痕の病的特性に対するbFGFの効能：
MMP-1発現低下の改善、HGF発現亢進とコラーゲン沈着の減少
杏林大学形成外科 江藤ひとみ
- S1-5 ケロイド・肥厚性瘢痕に対する多角的視点からの研究／臨床の実践
—当科におけるケロイド研究の歴史—
北海道大学形成外科 林 利彦
- S1-6 炎症的側面と腫瘍的側面を持つケロイドに対する基本的アプローチ
日本医科大学武蔵小杉病院形成外科 土佐眞美子

【シンポジウム2】 第2日 10月7日（金）
『微小血行に対する新しい理解』

- 司会 埼玉医科大学形成外科 三鍋 俊春
徳島大学形成外科 橋本 一郎
- S2-1 In vivoの微小循環研究
埼玉医科大学形成外科 市岡 滋

- S2-2 毛髪周囲微小循環（毛髪・脂肪組織内血管）からの
毛周期・毛髪成長に与える影響の解析と酸素療法の有効性
東京大学形成外科 加藤晴之輔
- S2-3 経皮的二酸化炭素分圧でとらえる皮膚微小血行不全
徳島大学形成外科 安倍 吉郎
- S2-4 真皮の静脈解剖からみた微小循環
慶應義塾大学解剖学 今西 宣晶
- S2-5 MDCTによる下腿のリンパ管解剖の解明
慶應義塾大学形成外科 山崎 俊
- S2-6 皮弁奉上げ後の微小循環変化
～マウス背部皮弁血管可視化モデルにおける研究～
埼玉医科大学形成外科 塩川 一郎

【パネルディスカッション1】 第1日 10月6日（木）

『アンチエイジング医療の病理と臨床』

- 司会 自治医科大学形成外科 菅原 康志
東京女子医科大学形成外科 河野 太郎
- PD1-1 抗シワ製品開発のためのシワの実態研究
花王株式会社生物化学研究所 塚原 和枝
- PD1-2 増殖因子治療後の皮膚の病理組織学的変化と皮膚粘弾性の変化
札幌医科大学皮膚科学教室 小野 一郎
- PD1-3 CO₂ fractional laser 照射後の経時的な組織学的変化について
林原医院 林原 伸治
- PD1-4 フラクショナルレーザー治療の病理と臨床
東京女子医科大学形成外科 河野 太郎
- PD1-5 肝斑に対するレーザートーニング治療と
メラノサイト含有人工皮膚モデルを用いたその作用機序の病理
昭和大学形成外科 加王 文祥
- PD1-6 アンチエイジング医療の病理と臨床：シミの診断と治療
湘南鎌倉総合病院形成外科・美容外科 山下 理絵

【パネルディスカッション2】 第1日 10月6日（木）

『組織幹細胞移植はどこまで来たのか』

- 司会 順天堂大学形成外科 水野 博司
聖マリアンナ医科大学形成外科 熊谷 憲夫
- PD2-1 真皮の細胞を用いた再生医学
国立国際医療研究センター研究所
細胞組織再生医学研究部 大河内仁志
- PD2-2 血管幹細胞(EPC)における組織再生治療はどこまで来た！
順天堂大学形成外科 田中 里佳
- PD2-3 脂肪組織由来幹細胞の特性と臨床応用へ向けた取り組み
関西医科大学形成外科 覚道奈津子
- PD2-4 骨膜幹細胞より再生誘導された新生骨組織における
骨膜採取部位の影響

PD2-5	新たなマスター幹細胞（MUSE細胞）の利用にむけて	近畿大学形成外科	磯貝	典孝
		東京大学形成外科	青井	則之

【特別セッション】 第2日 10月7日（金）

『形成外科医としてこの領域を研究する理由とは？』

	司会	金沢医科大学形成外科 北海道大学形成外科	川上	重彦
			山本	有平
T-1	ペプチドハイドロゲルを用いた培養真皮、培養皮膚の作製	昭和大学形成外科	加王	文祥
T-2	皮膚—特に真皮再生について			
T-3	走査電子顕微鏡観察で見えた新しい創傷治癒の世界	京都大学形成外科	森本	尚樹
		防衛医科大学校形成外科	山本	直人
T-4	神経再生についての研究を行う理由とは	順天堂大学形成外科	林	礼人
T-5	形成外科医としてこの領域を研究する理由とは？ 「端側神経縫合、末梢神経再生」			
T-6	気道損傷の研究における形成外科医の役割と形成外科領域への応用	大阪大学形成外科	松田	健
		東京都立広尾病院形成外科	山本	有祐

【ガイドラインシンポジウム1】 第1日 10月6日（木）

『【ケロイド・肥厚性瘢痕】瘢痕拘縮』

司会	京都大学形成外科 長崎大学形成外科	鈴木	茂彦
		秋田	定伯
	久留米大学形成外科・顎顔面外科 長崎大学形成外科	古賀	憲幸
		吉本	浩
	久留米大学形成外科・顎顔面外科 健和会大手町病院形成外科	森久陽	一郎
		石井	義輝

【ガイドラインシンポジウム2】 第2日 10月7日（金）

『太田母斑』

司会	慶應義塾大学形成外科 大城クリニック	貴志	和生
		大城	貴史
	葛西形成外科 君津中央病院 横浜栄共済病院形成外科	葛西健一郎	
		渡部	慎司
		醍醐	佳代

（3）日本形成外科学会誌を編集・発行した。

第31巻2号 平成23年 2月 67頁 4, 470部

第31巻3号	平成23年 3月	69頁	4, 440部
第31巻4号	平成23年 4月	77頁	4, 450部
第31巻5号	平成23年 5月	58頁	4, 490部
第31巻6号	平成23年 6月	97頁	4, 480部
第31巻7号	平成23年 7月	75頁	4, 520部
第31巻8号	平成23年 8月	92頁	4, 490部
第31巻9号	平成23年 9月	63頁	4, 490部
第31巻10号	平成23年10月	65頁	4, 500部
第31巻11号	平成23年11月	54頁	4, 520部
第31巻12号	平成23年12月	68頁	4, 510部
第32巻1号	平成24年 1月	61頁	4, 520部

(4) Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery を発行した。

第45巻1号	平成23年 5月	56頁	2, 000部
第45巻2号	平成23年 7月	64頁	2, 000部
第45巻3号	平成23年11月	56頁	2, 000部
第45巻4,5合併号	平成23年11月	80頁	2, 000部
第45巻6号	平成24年 1月	56頁	2, 000部

(5) 春季学術講習会及び秋季学術講習会を下記のとおり開催した。

1. 春季学術講習会

日 時；平成23年4月12日（火）午後12時30分～午後4時45分

会 場；ホテルクレメント徳島 4F『クレメントホール』

テーマ1；難治性潰瘍

題目および講師

1) 難治性潰瘍（総論）	順天堂大学形成外科	水野 博司
2) 下肢潰瘍	川崎市立多摩病院形成外科	松崎 恭一
3) 褥瘡	東北大学形成外科	館 正弘
4) その他の潰瘍	杏林大学形成外科	大浦 紀彦

テーマ2；医療安全

5) 地方国立大学付属病院における医療安全管理の実情

徳島大学整形外科学准教授

徳島大学病院安全管理対策室長 加藤 真介

2. 秋季学術講習会

日 時；平成23年10月5日（水）午後13時00分～午後5時15分

会 場；ハイアットリージェンシー東京 B1F『センチュリールーム』

テーマ1；炎症・変性疾患

題目および講師

1) 感染一般・眼瞼疾患	岩手医科大学形成外科	柏 克彦
2) 顔面神経麻痺に対する形成外科手術	神戸大学形成外科	橋川 和信
3) 四肢の炎症・変性疾患 神経・血管・骨・関節・腱疾患	東京慈恵会医科大学形成外科	松浦慎太郎
4) リンパ浮腫	東京女子医科大学形成外科	井上要二郎

テーマ2；医療安全

5) 専門医として関わる医療安全ーピアレビューの重要性ー

東京医科大学医療安全管理学教授 相馬 孝博

(6) 日本形成外科学会専門医の審査を専門医認定委員会において行った。

平成23年度専門医合格者氏名(受付順敬称略)

黒田 大樹	小泉 尚子	小林 友哉	栗原 秀徳	北山 晋也
岩井 伸哉	伊藤 奈央	岩瀬 わかな	後藤 浩之	常川 主裕
米村 拓磨	沖田 英久	井畑 峰紀	平松 幸恭	長尾 宗朝
長谷川 健二郎	塩谷 隆太	中川 嗣文	今村 禎伸	錦織 岳史
吉川 摩由	千代倉 友博	吉田 龍一	林 稔	今西 理也
坂本 好昭	天野 信行	信太 薫	田村 亮介	樋口 慎一
藤田 宗純	桑田 久美子	尾崎 絵美	森山 慶太	安永 能周
鈴木 小織	保條 めぐみ	小林 友香里	山中 佑次	栗田 恵里奈
相原 有希子	光井 俊人	松田 倫史	小野 紗耶香	梶田 智
久保田 夏枝	杉下 和之	上原 英衣	黄 聖琥	名越 由佳
勝野 昌代	高木 尚之	高山 沙衣子	徳岡 晋太郎	有川 俊輔
田中 伸吾	築 由一郎	山本 真理子	岡田 宇広	渡辺 玲
石坂 知華	遠藤 淑恵	山尾 健	中庄 谷奈々穂	草竹 兼司
波多江 顕子	種子田 紘子	前田 尚吾	清水 宏昭	小松 一成
井上 麻由子	渡邊 武夫	津田 雅由	瀬戸 彩乃	川崎 雅人
岩寄 大輔	服部 友樹	大瀧 雄平	丸山 直樹	谷川 昭子
黒崎 泰史	松浦 喜貴	日下 淳子	芝山 浩樹	門脇 未来
金子 章子	秦 まり子	曾我 まゆ子	乾 恭子	小野田 素大
中馬 久美子	藤岡 佑介	松村 崇	野本 俊一	綾 梨乃
春山 勝紀	安嶋 康治	菅原 順	大石 季美江	高見 麻衣子
森定 淳	森本 篤志	佐藤 卓士	長田 篤祥	氷見 和巳
野田 真喜	末澤 絵美	三浦 智絵	渡邊 美佳	藤川 平四朗
白井 隆之	城下 晃	清水 瑠加	北原 和子	柴田 大
福原 定子	森 和歌子	雑賀 美帆	池山 有子	猪原 康司
宇佐美 聡	塩澤 佳	田島 宏樹	花井 潮	島田 奈都子
光野 乃祐	尹 琇暎	安井 史明	三宅 啓介	鈴木 綾乃
安藤 紗恵	荻野 秀一	金子 貴芳	渡邊 玲子	棚倉 健太
三宅 良平	加納 麻由子	田尻 豊和	倉林 孝之	衛藤 明子
櫛田 哲史	酒巻 美保	山口 梨沙	橋口 叔子	山道 光作
酒井 成貴	山崎 究	森 怜子	小倉 亜紗子	

合計 149名 (応募者 188名)

(7) 日本形成外科学会認定施設の審査を認定施設認定委員会において行った。

平成24年度新認定施設名

【地区】 北海道 【施設名】 北斗病院 形成外科

【登録番号】

12-1026-000

関 東	東	手稲溪仁会病院 形成外科	12-1027-000
		日鋼記念病院 形成外科	12-1028-000
		東京都小児総合医療センター 形成外科	12-3132-000
		順天堂大学附属浦安病院 形成外科	12-3133-000
		東海大学医学部付属八王子病院 形成外科	12-3134-000
		東京通信病院 形成外科	12-3135-000
		深谷赤十字病院 形成外科	12-3136-000
		国際医療福祉大学三田病院 形成外科	12-3137-000
		藤沢市民病院 形成外科	12-3138-000
		佐久市立国保浅間総合病院 形成外科	12-5082-000
中 部	部	福井大学医学部附属病院 形成外科	12-5083-000
		伊那中央病院形成外科	12-5084-000
		ベルランド総合病院 形成外科	12-6086-000
関 西	西	多根総合病院 形成外科	12-6087-000
		社会医療法人生長会府中病院 形成外科	12-6088-000
		京都第一病院 形成外科	12-6089-000
		八尾市立病院 形成外科	12-6090-000
		大阪回生病院 形成外科	12-6091-000
		浦添総合病院 形成外科	12-8064-000
		熊本赤十字病院 形成外科	12-8065-000

(8) 日本形成外科学会専門医更新を専門医生涯教育委員会において行った。

A) 平成24年度専門医更新者氏名(順不同敬称略)

見元弘一郎	中村真一郎	当山 拓也	塩川 一郎	小坂 和弘
山下 昌信	秋本 峰克	田中 浩二	飯田 匠子	岡本 年弘
田中 宝	西部 泰弘	南方 竜也	東盛 貴光	大塚 尚治
中野 貴光	薦 幸子	楊井 哲	菊池 守	藤田 龍哉
石川 正	小谷野博正	越智 正和	三好みちよ	畑谷 芳功
和家 知子	樋熊 有子	赤松 久子	森 克哉	井上 美栄
寺島 洋一	森田 礼時	波多 祐紀	加藤 優子	浜島 昭人
緒方 慶隆	大塚康二郎	岡田 雅	安村 和則	田中 正英
木下 涼子	加藤 敬	金沢雄一郎	大森 直子	牟禮 理加
濱畑 淳盛	窪田 吉孝	村松 英之	原田 輝一	山下 理絵
去川 俊二	今川孝太郎	山本 理奈	長尾 由理	三澤 正男
藤津美佐子	藤井 美樹	清水 史明	玉田 一敬	野崎 忍
高須 幹弥	石井 秀典	西岡 弘記	青木 伸峰	山田 朗
竹内 真	須永 中	那須和佳子	尾崎 峰	水戸部知代
黒澤 智子	菱田 雅之	福田 憲翁	長谷川宏美	飯塚 雄久
野田 和男	高木美香子	田中 洋平	成松 巖	加王 文祥
江川 哲雄	高橋 長弘	川村 達哉	近藤 雅嗣	芋川 英紀
手島 玲子	守永 圭吾	柳田 卓也	廣瀬 太郎	佐原慶一郎
菅 浩隆	井野 康	渡辺あずさ	山本 光宏	山口 明伸
鈴木 文子	坂本 有孝	大槻祐可子	須藤 聡	蓮見 俊彰
菅 豊明	西 由起子	太田 壮	山本 稔	松村 一
小泉 智恵	前場 崇宏	飯岡 弘至	橋本 昌明	武石 明精

難波祐三郎	藤盛 成裕	小浦場祥夫	日下志 巖	佐藤 英明
伊波 博雄	竹内 正樹	加藤 友紀	佐藤 俊昭	牧野 良彦
富田 浩一	与座 聡	嘉陽 宗隆	平田礼二郎	山本 雅之
渡辺 敏成	鈴木 隆	木内 達也	山本 有祐	矢島 和宜
井上 雅博	山口 貴嗣	畠 真也	高見 薫	朝蔭 洋子
野口 昌彦	中林 伸之	深井 孝郎	岡田 恵美	鈴木 昌秀
福田 慶三	塚原 孝浩	森本 尚樹	三好 宏	岸邊 美幸
上 茂	中村 正也	丹生 淳史	秋田 定伯	島田 賢一
秋元 正宇	森岡 康祐	横田 和典	石田 有宏	中田 洋子
上里 尚美	奥本 和生	栗田 和宏	岩田 浩嗣	井上 尚子
久徳 茂雄	河野 恵美	鳥居 博子	安田 昇平	井上 幸彦
宮田 昌幸	野田 武志	中村 恭介	林 淳也	土佐眞美子
土井 秀明	岡山 直靖	力丸 英明	佐藤 治明	蘇 雅宏
村下 理	惣角 卓矢	田中 達典	菊池 二郎	今井 章仁
山路 仁	福井 雅士	今泉 敏史	稲川 喜一	丹下 一郎
千葉 理	柴田 佳子	舘下 亨	田中 祝	市田 正成
平野 哲	江口 智明	利根川 守	高瀬 税	西山真一郎
内山 清貴	平野亜佐子	畑 寿太郎	杉本 陽子	
竹内 英二	永竿 智久	末吉 修	黒田 周一	

以上203名（対象者270名）

**B) 日本形成外科学会専門医生涯教育制度細則第11条並びに専門医制度細則
第29条第4項により専門医資格を取り消される者**

土田 義隆	野田 好矩	真部 正志	鮫嶋 憲治	石川 隆夫
永田 悟	谷 奈保紀	大慈弥悠子	山中 克二	小立 健
大隅 昇	釧持 誠	榊原 章洋	阪口 雄二	水谷 宏一
西谷 茂樹	佐武 晃幸	小林 直隆	赤羽 紀子	PRINYA, PIPATCHUKIAT

**(9) 日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医の審査を皮膚腫瘍外科
指導専門医認定委員会において行った。**

平成23年度皮膚腫瘍外科指導専門医合格者氏名（受け付け順敬称略）

鈴木 裕一	富樫 真二	田邊 毅	堀江 和幸	横山 才也
飯岡 弘至	久保 盾貴	今井龍太郎	林 礼人	

以上 9名

(10) 各種委員会報告

1) 財務委員会

委員長：鈴木 茂彦

委員：川上 重彦、佐藤 兼重、細川 亙、山本 有平

開催年月日：メール委員会

主な議題：1. 平成23年度収支決算
2. 平成24年度予算案

活動の概要：1. 平成23年度収支決算、平成23年度予算案について確認を行った。
2. 法人化に伴う予算決算書式の変更について確認を行った。

2) 専門医認定委員会

委員長：中塚 貴志

担当理事：内沼 栄樹

委員：相原 正記、井砂 司、今井 啓介、岩澤 幹直、大久保文雄、
大西 清、垣淵 正男、岸邊 美幸、木股 敬裕、木村 中、
多久嶋亮彦、田中 克己、松村 一、三鍋 俊春、宮坂 宗男、
宮脇 剛司、四ツ柳高敏

開催年月日：①平成23年10月7日
②平成23年11月26・27日
③平成24年1月26・27・28日

主な議題：1. 専門医申請者の資格審査
2. 専門医認定審査
3. 審査法の検討
4. 研修手帳の作成

活動の概要：1. 平成23年度の専門医申請者188人に対し、平成23年11月26・27日に新宿ワシントンホテルにて提出書類による資格審査を行った。
2. 今回、資格審査において書類不備（日付記載ミス、術後画像・術中写真・術前画像の不足など）が目立ち、書類再提出依頼は107人に及んだ。資格審査で不合格、書類不備がありと判断された申請者からの弁明、書類追加に対してメール委員会を開き審査した。その結果、資格審査による不合格は7人となり、181人が筆記試験の受験資格を得ることとなった。
3. 資格審査合格者181人に対し、平成24年1月26・27・28日にホテルニューオータニにて筆記試験および口頭試問による審査を行った。
4. 専門医審査申請者：188人
資格（書類）審査不合格者：7人
筆記・口頭試問不合格者：30人
欠席者：2人
専門医試験合格者：149人
合格率：80.1% （149/186）

5. 筆記試験問題の一部を問題集から改変し出題した。医療問題は前年同様 1 問出題した。また、記述式問題を 1 問出題し、採点には加えないが、口頭試問の際の参考とした。
6. 今回の専門医審査で、マイナー症例の定義が曖昧である、疾患の項目分類も不明確な点がある、術中写真の定義が曖昧である点などが問題として挙げられた。これらは今後学会 HP 上に Q&A の形でできるだけ具体的に掲載して学会員に周知させるのが良いとの意見になった。
7. なお、筆記試験が A ランクでも基本的臨床知識に欠ける受験生がいることが報告され、10 症例の提出書類を含めどのように総合評価するのか評価基準の再考が必要と思われた。この点に関しては、今井委員を委員長とする小委員会を立ち上げ、検討することとなった。
8. 専門医認定機構の勧告を受け、学会として「研修手帳」を作成することが提案され、本委員会内に「研修手帳作成」部会を設けるよう理事会から要請されたので、多久嶋委員を委員長として同部会を立ち上げた。

3) 専門医生涯教育委員会

委員長：楠本 健司

委員：秋元 正宇、阿部 清秀、飯田 直成、石田 有宏、岡 博昭、
小林 一夫、内藤 素子、中束 和彦、横尾 和久

開催年月日：2012 年 2 月 5 日（更新審査委員会）

その他、適宜メール委員会

主な議題：1. 更新に対する東日本大震災被災の取り扱いについての広報
2. 専門医資格更新審査
3. 委員会承認の学術集会・研究会等の更新審査
4. 学術集会・研究会等の新規登録申請の審査
5. 今後の問題点について

活動の概要：1. 更新に対する東日本大震災被災の取り扱いについての広報
専門医資格更新と学会・研修会等生涯教育点数更新における東日本大震災被災の取り扱いについて学会誌に広報を掲載した。

2. 専門医資格更新審査

- i) 専門医資格更新審査対象者は 273 名で、更新を承認された者は 199 名（罹災証明提出 1 名、診療実績未提出 4 名（全員再提出）、書類不備により返却し追加書類などの提出により更新を認めたもの 4 名、追加書類など提出にても条件を満たさず更新を認めなかったもの 1 名、留保 3 名、更新辞退 4 名、未提出 62 名であった。
- ii) 資格更新点数免除者の該当は 14 名で、更新を承認 3 名、未提出 10 名、更新辞退 1 名であった。
- iii) 留保願いは 3 名で、いずれも海外留学のため 1 年の留保が認め

られた。

- iv) 締め切り後の書類提出 1 名、参加章を台紙に貼付せず提出 2 名、実績記録で論文の「掲載誌名、巻数、ページ数」の明記がない 2 名、誤字が多い 1 名、「総会・学術集会または基礎学術集会」の参加章の必要枚数が不足 1 名（演題発表を行い参加章未提出分があったため、今回は参加を認めた）、以上合計 7 名に警告文を送付した。

3. 委員会承認の学術集会・研究会等の更新審査

更新対象の関連学会・研究会等 50 件につき、3 年分のプログラムを審査した。

- i) 「日本手外科学会秋期教育研修会」「日本手外科学会春期教育研修会」は関連学会研修会(4 点)として認め、今後は更新の必要はないこととした。
- ii) 以下の 4 つ関連学会・研究会は、3 年間の平均演題数 10 題を満たしていないため、次回更新時に平均 10 題を満たすよう警告文を送付した。

日本熱傷学会 中国・四国地方会

日本熱傷学会 東北地方会

日本熱傷学会 北陸地方会

日本熱傷学会 甲信地方会

- iii) 以下の 4 つ関連学会・研究会は、3 年間の平均演題数 10 題を満たしていないため、次回更新時に平均 10 題を満たさない場合は、3 点→1 点へ減点することを警告文として送付した。

北陸手外科研究会

愛媛形成外科研修会

静岡手の外科・マイクロサージャリー研究会

大阪マイクロサージャリー研究会

- iv) 以下の 3 つの関連学会・研究会は、3 年間の平均演題数 10 題を満たさず、前回更新時も満たしていなかったため、3 点→1 点へ減点した。

形成外科臨床会

東海マイクロサージャリー研究会

京都形成外科医会

4. 学術集会・研究会等の新規登録申請の審査

関連学会・研究会の新規登録申込が 6 件あり、以下の点数で承認した。

第 12 回東洋美容外科学会

⇒出席 8 点/演題発表筆頭者 6 点/共同 2 人まで 2 点

第 4 回世界創傷治癒学会連合学会

⇒出席 8 点/演題発表筆頭者 6 点/共同 2 人まで 2 点

西新宿形成外科フォーラム

⇒出席 3 点

AOCMF プリンシプルコース

⇒出席 4 点

AOCMF スタータワークショップ

⇒出席 3 点

P R P (多血小板血漿)療法研究会

⇒出席 4 点/演題発表筆頭者 3 点/共同 2 人まで 1 点

＊「第 4 回世界創傷治癒学会連合学会」は、非継続として申請があったが、継続希望であれば、連絡をもらうよう通知することとした。

5. 今後の問題点について

- ①申請者の点数の誤認が多く、該当する関連学会や研究会などの生涯教育点数がいつの時点から認められているか、またいつから点数が変更になったか、などが現状の手引ではわかりづらいため、次回より「出席点数」「筆頭著者」「共著者」「承認時期」が分かる一覧表を提示することになった。
- ②各種様式上の年表記が、西暦と年号とが混在しており、確認する上で支障をきたすため、今後西暦表記で統一することになった。
- ③生涯教育基準点数に「支部学術集会(8 点)」と「地方会(6 点)」があり、地域により開催回数に差があるため、不公平感があるのではないかという意見がでた。

4) 専門医試験問題作成委員会

委員長：吉本 信也

委員：浅井真太郎、岡田 雅、奥本 隆行、河合 勝也、菊池 雄二、
木村 得尚、栗山 元根、黒木 知明、桑原 理充、小藺喜久夫、
坂井 靖夫、佐々木 了、島倉 康人、清水 祐紀、武石 明精、
土佐 泰祥、内藤 浩、根本 充、浜島 昭人、松浦慎太郎、
山崎 明久、吉川 厚重、力久 直昭 *下線は分野責任者

開催年月日：平成 23 年 10 月 7 日

メール委員会 4-5 回

活動の内容：新たな試みとして、図付き問題の作成を行った。

写真や絵の付いた問題を 11 項目に亘って 52 題作成し、何度か見直しを行った。

5) 認定施設認定委員会

委員長：佐藤 兼重

委員：上田 晃一、上村 哲司、柏 克彦、菅原 康志、
田中 一郎、橋本 一郎、深水 秀一

開催年月日：①平成 23 年 6 月 18 日メール委員会

②平成 23 年 7 月 25 日メール委員会

③平成 23 年 10 月 6 日

④平成 24 年 2 月 15 日

- 主 な 議 題： 1. 東日本大震災の影響を受けた施設への対応について
2. データベース委員会からのいくつかの依頼事項の検討
3. 認定施設および教育関連施設の更新認定と新規認定審査
4. その他

活動の概要： 1. 東日本大震災では東北 3 県において極めて甚大な損害を受けているために、当該県における認定施設または教育関連施設での症例数などに問題のある場合は、適切な対処を要する旨、委員会として議論を重ねてきた。その結果そのような対処を要する地域は東北 6 県と拡大することにしたが、東北 6 県以外でも震災の影響による手術枠の減少などの理由により、症例数が満たない可能性もありうるとの意見があった。そのような施設は個々に審査を行うこととし、その際は理由書の提出をもとに委員会にて審議を行うこととした。しかしながら本年度の審査（認定施設・教育関連施設の更新、新規認定施設・教育関連施設申請）においては手術症例数への影響が問題となった施設はなかった。しかし影響による PC 入力の問題で手書きによる更新申請（本審査においてはデータベースに基づく PC 入力を義務付けている）の施設が 1 施設あり、承認された。結論としては今回の大震災における形成外科認定施設、教育関連施設の更新、新規申請ではほとんど影響はなく経過した。

2. データベース委員会からのいくつかの検討依頼事項について委員会にて審議した。検討依頼事項と委員会としての回答結果は次の通り。
- i) 1 人の患者が異なる部位に異なる疾患をもつ場合には、複数の手術カウントは？
 - ii) 1 人の患者の 1 疾患に対し、再手術も含め同日に 2 回以上の手術（再手術など）を行っても手術カウントは、また他の日に手術した場合は？
 - iii) 1 人の患者が同一部位に異なる疾患をもつ場合、それぞれの手術を同日にした場合の複数の手術カウントは？
 - iv) 1 人の患者で多部位に存在する場合の手術カウントも複数の手術カウントは？
 - v) 麻酔の種類で、静脈麻酔はどれに該当するか
 - vi) 質問 i) - v) に該当しないまたは、想定しないような症例が、過去や未来にありうる場合の現在の対処法

委員会の回答

- i) カウントする
- ii) カウントする
- iii) カウントする
- iv) カウントする、但し手術件数としては身体の一部別で記入する（頭部、左右上肢、躯幹、下肢など）。
- v) 全身麻酔
- vi) 状況に応じて適宜検討して対応する。

3. 本年度の認定施設・教育関連施設の更新および各新規申請の審査結果は次のとおり。
- i) 認定施設更新申請は 274 施設であり、うち 266 施設が更新認定された。5 施設は教育関連施設への転換となった。3 施設は資格取り下げとした。
- 教育関連施設更新申請は 163 施設であり、うち 138 施設が更新認定された。13 施設は認定施設への転換が承認され、12 施設は資格取り下げとした。
- ii) 新規認定施設申請は 21 施設であり、21 施設すべてが認定された。
- 新規教育関連施設申請は 20 施設であり、うち 19 施設が認定され、1 施設は未承認とした。
4. その他
- 前年度の専門医試験合格者が常勤している施設が新規認定施設の申請をする場合は、本学会の専門医認定日（現在は当該年 4 月 1 日）より 12 月 31 日までの臨床業績をもって申請は許可される。また内容が充足していれば、原則として認定は承認されることが理事会にて確認された。

6) 学術委員会

委員長：大慈弥裕之

委員：秋田 定伯、磯貝 典孝、稲川 喜一、井上要二郎、岡崎 睦、
小川 令、光嶋 勲、櫻井 裕之、柴田 実、菅原 康志、
関堂 充、高木 誠司、武田 啓、館 正弘、田中 嘉雄、
鳥山 和宏、永竿 智久、西本 聡、橋川 和信、杠 俊介、
横田 和典

開催年月日：①平成 23 年 4 月 13 日

②平成 23 年 10 月 7 日

メール委員会随時

主な議題：1. 平成 23 年度春季学術講習会の件
2. 平成 23 年度秋期学術講習会の件
3. 平成 23 年度学術奨励賞

活動の概要：1. 平成 23 年 4 月 12 日(火)ホテルクレメント徳島において平成 23 年春期学術講習会を「難治性潰瘍」、「医療安全」のテーマで開催した。参加申し込み 238 名であったが、うち欠席 3 名、遅刻 1 名、参加章未着 5 名、参加章忘れ 1 名、当日聴講申込 6 名であった。遅刻は地震による公共機関運行停止という不可抗力のため、受講証は後日学会事務局から郵送することとした。費用未納(東日本大震災被災地域)が 3 名いたが、当日全員より納金された。受講証受取をしなかった 1 名に対しては、後日学会事務局から郵送することとした。

2. 平成 23 年 10 月 5 日(水)ハイアットリージェンシー東京にて平成 23 年秋期学術講習会を「炎症・変性疾患」、「医療安全」のテーマ

で開催した。参加申し込み264名、欠席11名、当日聴講申し込みが4名あった。

3. 平成23年度学術奨励賞は今年度より機関誌以外部門のみ公募となり、計24編(基礎部門8編、臨床部門16編)の応募があった。候補論文4編(基礎部門2編、臨床部門2編)と機関誌編集委員会より選定された機関誌部門候補論文4編(基礎部門2編、臨床部門2編)の合わせて8編を理事会に上申し、以下の4編が学術奨励賞に決定した。

《学術奨励賞》

【基礎部門】

小林 眞司 先生 (神奈川県こども医療センター形成外科)

『Reconstruction of human elastic cartilage by a CD44+ CD90+ stem cell in the ear perichondrium』

Proc. Natl. Acad. Sci. USA Vol.30;108(35):14479-84, 2011

吉龍 澄子 先生 (国立病院機構大阪医療センター形成外科)

『ヒト真皮線維芽細胞の分化能評価』

日形会誌 vol. 31(pp453-461), 2011

【臨床部門】

坂本 好昭 先生 (慶応義塾大学形成外科)

『Dynamic total skull remodeling by a combination of morcellation craniotomy with distraction osteogenesis: the MoD procedure』

J Craniofac Surg. 22(4):1240-6, 2011

三鍋 俊春 先生 (埼玉医科大学総合医療センター形成外科)

『Latissimus dorsi flaps orbital on the lateral intercostal artery perforators: Anatomical study and application in autologous breast reconstruction』

JPSHS vol. 31(pp58-65), 2011

6-i) ガイドライン作成部会

部会長: 小林誠一郎

出席者: 秋元 正宇、清川 兼輔、清澤 智晴、楠本 健司、小林誠一郎、
寺師 浩人、仲沢 弘明、天方 将人、江口 智明、緒方 寿夫

欠席者: 菅原 康志、柴田 実

開催年月日: 平成23年4月13日(水) 12時~13時15分

(第54回形成外科学会総会開催時)

主な議題: 1. ガイドライン作成の進捗状況について報告

2. ガイドライン作成の手引き改訂について

3. ガイドラインの委員会吟味の問題点と改善案について

4. 作成ガイドライン監修等の責任表示について
5. 眼窩底骨折ガイドラインの検討
6. 乳房再建ガイドラインの検討

部 会 長：清川 兼輔

委 員：秋田 定伯、大城 貴史、柏 克彦、 菊池 雄二、清澤 智晴、
関堂 充、 寺師 浩人、土佐 泰祥、三鍋 俊春

開催年月日：平成 23 年 10 月 6 日(木) 7 時 50 分～8 時 50 分

(第 20 回形成外科学会基礎学術集会開催時)

主 な 議 題：1. ガイドライン作成の進捗状況について報告
2. ガイドライン案への「今後の課題」記載および構造化抄録
フォーム提出の徹底について
3. ガイドライン委員による CQ 案の事前吟味
4. 口蓋裂学会での口唇顎口蓋裂ガイドライン作成の動向について

メール委員会(頻回)：

1. 三学会のガイドライン委員会の整理
各学会ガイドライン委員会および合同ガイドライン委員会の役割の
明確化、合同ガイドライン委員再編成、ガイドラインが完成するま
での流れの明確化
2. 委員への案配信および意見徴収、統括責任者への差し戻しおよび修
正依頼
3. ガイドライン案のパブリックコメント開始
4. 統括責任者への各種資料提出の徹底等

6-ii) 用語部会

部 会 長：柴田 実

委 員：小川 令、 清澤 智晴、久徳 茂雄、永竿 智久、野瀬 謙介、
力丸 英明

活動の概要：日本医学会用語委員会に日本形成学会用語集ファイルと医学会用語集に
統合することを検討しておりましたが前委員長の開原先生が平成 22 年末
に急逝され、その後昨年 3 月の地震、日本医学会の開催中止検討などの
ため統合作業は見合わせとなりました。

昨年、平成 23 年 6 月頃に日本医学会の医学用語管理委員会新委員長に脊
山洋右先生が就任されました。

ようやく、延び延びになっていた日本医学会用語集と形成外科学会と医
学用語辞典との整合性のチェック結果を頂き（下段に概略を記載してお
ります）、現在これを分担、検討しており、これが終了次第、再度医学会
に統合作業の相談を行う予定となっています。

欧文全 7,531 件の結果

◎：英語と日本語が一致—————3,060 件

(医学会辞典に日本語が複数ある場合、その1つと一致しているものを
含む)

△：英語は一致するが、日本語は一致しない——709 件

▲：日本語が一致するが、英語は一致しない——715 件

X：英語、日本語ともに医学会辞典にはない——3,047 件

7) 機関誌編集委員会

委 員 長：上田 和毅

委 員：秋月 種高、石川 浩三、石田 有宏、市岡 滋、稲川 喜一、
上村 哲司、梅田 整、大城 貴史、岡崎 睦、小川 令、
梶川 明義、柏 克彦、櫻井 裕之、佐々木 了、菅又 章、
寺師 浩人、中岡 啓喜、永竿 智久、西本 聡、野平久仁彦、
橋本 裕之、深水 秀一、福屋 安彦、朴 修三、細川 互、
本田 隆司、水野 博司、矢野 浩規、杠 俊介、横尾 和久、
吉岡 伸高、吉村浩太郎、力丸 英明

開催年月日：平成 23 年 10 月 6 日(木)

活動の概要：1. 投稿論文進捗状況 *平成 24 年 2 月 29 日現在

i) 郵送投稿受付分(平成 23 年 1 月～4 月 19 日)

①投 稿 数 50 編(総説 2、原著 13、症例 31、OA1、CR3)

②掲載決定 40 編(総説 1、原著 9、症例 27、OA1、CR2)

③進 行 中 6 編(原著 3、症例 2、CR1)

④却 下 4 編(総説 1、原著 1、症例 2)

ii) オンライン投稿受付分(平成 23 年 4 月 20 日～平成 24 年 2 月 29 日)

①投 稿 数 139 編(総説 2、原著 41、短報 4、症例 90、OA1、CR1)

②掲載決定 68 編(原著 17、短報 3、症例 46、OA1、CR1)

③進 行 中 50 編(総説 2、原著 20、症例 27、短報 1)

④待 機 中 11 編(原著 1、症例 10)

⑤却 下 4 編(症例 4)

⑥取り下げ 6 編(原著 3、症例 3)

※受付不可 21 編(原稿不備 18、投稿エラー3)

*上記投稿数には含まず)

2. オンライン投稿・査読システム運用

平成 23 年 4 月 20 日からオンライン投稿・査読システムの運用を開始した。

現在まで特に重大な障害なく運用中である。

3. 学術奨励賞候補論文候補選出

平成 23 年度学術奨励賞候補論文候補として日形会誌 (Vol. 31, No. 1～12) から 3 編、JPSHS (Vol. 44, No. 6～Vol. 45, No. 5) から 1 編、計 4 編を学術委員会へ推薦した。

4. その他

- i) 一般社団法人日本熱傷学会からの要望により第31巻第9号掲載論文の表題中の語句“火傷”を“熱傷”に変更し、その旨を第31巻第11号のお知らせにおいて会員へ周知した。
- ii) 第32巻第1号より表紙の色を変更した。
- iii) 英文論文の投稿に対する取り扱いについて（継続審議事項）
現在、日本形成外科学会には正式の英文機関誌(Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery, JPSHS)があるにも関わらず、日形会誌の投稿規定では英文論文の投稿を認めている。この点を是正するため、英文論文は専ら JPSHS への投稿に移行させることとし、日形会誌の投稿規定から英文論文に関する規定を削除することが編集委員会において提案され、承認された。今後、理事会の承認を経たのち、投稿規定を改正する予定である。

8) 渉外・広報委員会

委員長：朝戸 裕貴

委員：赤松 正、秋元 正宇、今井 啓道、岩平 佳子、小山 明彦、
岸邊 美幸、桑原 理充、橋川 和信、元村 尚嗣、森 弘樹、
矢野 健二、矢野 浩規

開催年月日：平成23年10月6日

他メール委員会4回

主な議題：日形会ホームページの内容充実、学会誌ニュースレター内容の管理

活動の概要：1. バナー規約の制定

2. 専門医一覧を一般向けページに掲載することを検討

3. HP内容の転載許可への対応

4. 学会誌ニュースレター、お知らせ内容のチェック

今後の課題：1. ビデオライブラリーの内容再評価

2. HPアクセス解析の検討

9) 国際委員会

委員長：百束 比古

委員：小林誠一郎、光嶋 勲、水野 博司、清川 兼輔

開催年月日：第1回委員会 平成23年10月7日(金)

第2回委員会(メール委員会)平成24年1月20日(金)

主な議題：1. 国際会議の広報について一会議の選定、方法について

2. 日本形成外科学会トラベリングフェロー制度の検討

3. 国際形成外科学会(IPRAS)招致について一結果の報告と戦略

4. 国際美容外科学会(ISAPS)招致と援助についての検討

5. 日韓、日中形成外科学会と本学会との連携について

活動の概要：1. 開催案内をする国際学会の提起。

2. Traveling fellow 制度の具体案の作成と提起。

3. ISAPS の 2016 年誘致と援助の検討。

4. I P R A S の誘致の検討。

10) 社会保険委員会

委員長：金子 剛

担当理事：内田 満

委員：相原 正記、井砂 司、井上要二郎、宇田川晃一、大久保文雄、
大城 貴史、大西 清、荻野 浩希、小室 裕造、関口 順輔、
関堂 充、館 正弘、田中 嘉雄、鳥山 和宏、難波祐三郎、
二ノ宮邦稔、前川 二郎、村上 正洋、村上 隆一、矢野 健二、
吉田 哲憲

開催年月日：①平成 23 年 4 月 7 日(全体)

②平成 23 年 8 月 19 日(拡大在京)

③平成 23 年 10 月 6 日(全体)

その他 適宜 e-mail 委員会

活動の概要：1. 平成 24 年度診療報酬改定について

①平成 24 年度改正要望項目

外保連が作成する社会保険診療報酬に関する改正要望書に、以下の医療技術（再）評価提案書を掲載し、外保連とともに要望を行った。

[技術新設]

- i) 骨内異物(挿入物)除去術 頭蓋・顔面(複数切開を要するもの)
- ii) 顔面多発骨折変形治癒矯正術
- iii) 遊離穿通枝皮弁術(顕微鏡下血管柄付きのもの)
- iv) I C G による赤外線蛍光リンパ管造影
- v) 陰茎再建術(尿道再建を伴うもの)
- vi) 乳房縮小術(性別適合手術におけるもの)
- vii) 自毛植毛術
- viii) 脂肪吸引術(再建目的に限る)

[技術新設]

- i) 併施手術の加算点数見直し(対象手術：K016・K017・K019・K020・K021・K033) 加算点数の見直し(100/100 加算)
- ii) 分層植皮術(25cm² 未満、25cm² 以上 100cm² 未満、100cm² 以上 200cm² 未満、200cm² 以上) 点数の見直し(増点)
- iii) 画像等手術支援加算 2. 実物大臓器立体モデルによるもの 点数の見直し(増点)
- iv) 皮膚レーザー照射療法 2.Q スイッチ付レーザー照射療法 算定可能治療回数の見直し(「2 回を限度」の廃止)
- v) 画像等手術支援加算 1. ナビゲーションによるもの 対象手術の拡大(K334・K334-2・K427・K427-2・K433・K434・K443)

[材料新規・改正(点数の新設)]

- i) スキンスタイプラー
- ii) 顕微鏡下血管吻合用縫合糸
- iii) 熱可逆性樹脂

②外保連からの要望項目のランク付け

厚労省から外保連に対して、要望書の項目にランク付けをするよう依頼があり、各学会の要望項目の25%をA評価とすることになった。

形成外科学会としては、新設2件（骨内異物除去（複数切開）、遊離穿通枝皮弁（顕微鏡下血管柄付き））、改正1件（併施手術の加算見直し）、材料1件（顕微鏡下血管吻合用縫合糸）をA評価項目とした。

③厚労省ヒアリングへの対応

平成23年9月12日17時より、品川イーストワンタワー会議室にて行われた。

参加者は内田担当理事、委員長、相原、宇田川、荻野の5名。説明項目は2項目のみとされたため、骨内異物除去（複数切開）と複数手術に係わる特例の見直しとし、特にK016動脈（皮）弁術、K017遊離皮弁術（顕微鏡下血管柄付き）、K020自家遊離複合組織移植術（顕微鏡下血管柄付き）を重点的に要望した。

④改正結果について

2012年2月10日開催の第221回中医協総会において来年度の診療報酬改正の答申が公表された。外保連試案において技術度の高い技術の大幅な増点が認められ、外科系の医療技術を適性評価してゆくという方向性が示されたものである。また形成外科学会として強く要望していた併施手術の100%加算の適応範囲拡大が認められた。

2. 外科系学会保険委員会連合(外保連)関連

①外保連委員

手術委員会：関堂 充、二ノ宮邦稔

(手術委員会)コーディネーティングワーキンググループ：相原 正記

(手術委員会)医療材料・医療機器ワーキンググループ：金子 剛、前川 二郎

処置委員会：関口 順輔(委員長)、小室 裕造、荻野 浩希

(処置委員会)輸血ワーキンググループ：関口 順輔

検査委員会：二ノ宮邦稔、荻野 浩希

実務委員会：関堂 充

(実務委員会)要望順位づけ検討ワーキンググループ：金子 剛

②外保連試案

外保連試案2012（手術試案第8版、処置試案第5版、検査試案第5版を含む）が医学通信社より平成23年12月に刊行された。

③外保連の法人化

外保連の法人化がなされた。会費等には変化はない。

④新規術式の登録

形成外科関連はなし

3. 日本医師会疑義解釈委員会関連

①委員長が委員として参加している。形式上、疑義解釈委員会と保険適応検討委員会に分割して開催することとなった。薬品、医療機器、検査などの保険適応に関する正式な決定機関となる。

平成24年3月3日（金）の委員会において、「エムラクリーム」について皮膚科学会と共同で、「保険適応可」として答申した。

②日本医師会薬理作用に基づく適応外使用の実態調査関連

2年に1回程度日本医師会が中心となり各学会から要望を集約している。今年度は、パルクス等の血管再建後の使用とインドシアニングリーンのリンパ管静脈吻合での使用が認められた。

4. 先進医療専門家会議、高度医療評価会議関連

委員長が委員として参加している。聖マリアンナ医大形成から申請のあった、「多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍治療」は9月13日開催の先進医療専門家会議にて承認された。

5. DPC 関連

厚労省保険局医療課による診断群分類見直し作業班会議が開催された。委員長がMDC16班班長（形成）として、班員として井砂委員、委員外で秋元正宇先生（日本医大北総医療センター）が参加した。MDC16班班会議が11月19日、班長会議が12月6日に開催された。主として外傷の診断群分類の精緻化、副傷病名、新規収載手術の検討を行った。

医療課より横断的検討のための意見が求められたため、以下の様に分担して検討した。

MDC 1 神 経

MDC 2 眼 : 大久保

MDC 3 耳 鼻 科: 村上

MDC 7 筋 骨: 二ノ宮

MDC 8 皮 膚: 相原（班員）

MDC 9 乳 腺: 矢野

MDC14 先天異常: 宇田川

MDC16 外 傷: 金子（班長）、井砂（班員）、
秋元（班員、社保委員外）

なお診断群分類見直し作業班は中医協の下部組織として通年活動する形態に改められるとのことである。

6. 日本小児期外科系関連学会協議会(JPASS)関連

委員長と社保委員外で鈴木啓之先生（千葉こども病院）の2名が参加。外保連を通じて要望している項目のうち小児に関する項目を抜粋して要望した。

7. 広報活動

①社会保険形成外科診療報酬早見表について

平成 24 年度改正版の監修作業中。4 月中に発行予定。

- ②第 54 回日本形成外科学会学術集会において社会保険委員会報告『形成外科領域における診療報酬の改定』を開催した。

日 時：平成 23 年 4 月 8 日(木)

司 会：関口 順輔、内田 満

演 者：宇田川晃一、大西 清

- ③第 20 回基礎学術集会時にイブニングセミナーを開催した。

日 時：平成 23 年 10 月 6 日(木)17:30～18:00

司 会：金子 剛

演 者：宮田俊男氏(厚労省医政局研究開発課高度医療専門官)

演 題：「厚労省が主導する医療イノベーションについて」

- ④第 55 回日本形成外科学会学術集会において、教育講演を予定している。

日 時：平成 24 年 4 月 13 日(金)13:20 から 15:20

第一部：社会保険診療報酬支払基金について

演 者：新木一弘氏 社会保険診療報酬支払基金審議役(前厚労省医政局研究開発課課長)

司 会：金子 剛

第二部：本年度の診療報酬改正について

演 者：大西 清、宇田川晃一

司 会：関口 順輔、内田 満担当理事

8. その他

- ①医療上必要性が高い未承認の医療材料・医療機器の申請

スミスアンドネフュー社の局所陰圧閉鎖装置(レナシス)を日本褥瘡学会が要望するにあたり、日本形成外科学会は関連学会となることを了承した。

- ②社保委員会に下記の部会を設置して、部会長(○)を中心に活動してゆくこととした。詳細および部会のメンバーについては今後検討する。

i) 審査・査定問題部会：○宇田川、大久保、村上、二ノ宮、関口

ii) 外 保 連 部 会：外保連委員および OB にて構成

iii) 先進・高度医療部会：○委員長、担当理事

iv) 広 報 部 会：○大西

v) 性別適合手術部会：○難波、委員長

vi) レーザー部会：○大城

1 1) 倫理委員会

委 員 長：内田 満

委 員：磯貝 典孝、伊藤 芳憲、岩波 正陽、大竹 尚之、楠本 健司、
小林誠一郎、吉村 陽子

外部委員：中木 敏夫、松木 邦裕、北河 隆之

開催年月日：①平成 23 年 9 月 15 日(メール委員会)

②平成 23 年 10 月 8 日(メール委員会)

③平成 23 年 12 月 29 日(メール委員会)

④平成 24 年 1 月 30 日(メール委員会)

⑤平成 24 年 3 月 9 日(メール委員会)

主 な 議 題：1. 「臨床医学の教育研究における死体解剖のガイドライン(案)」の
ブラッシュアップ

2. 学会員のグルーポン(インターネットでの集団購入)への関与に
ついて

3. 行政処分を受けた学会員への対応

活動の概要：1. 日本形成外科学会ビデオライブラリー作成および作成依頼にあたっ
ての指針(案)および日本形成外科学会ビデオライブラリー賃借にお
ける指針(案)を渉外・広報委員会と学術委員会に送付し、内容の検
討と確認を依頼した。

2. グルーポンに関与する学会員に対する対応を検討した。

3. 行政処分を受けた学会員への対応を検討した。

1 1-i) 利益相反部会

部 会 長：内田 満

委 員 員：磯貝 典孝、鈴木 健司、角谷 徳芳

外 部 委 員 員：北河 隆之

開催年月日：①平成 23 年 9 月 17 日(メール委員会)

②平成 23 年 12 月 12 日(メール委員会)

③平成 24 年 1 月 19 日(メール委員会)

④平成 24 年 2 月 7 日(メール委員会)

主 な 議 題：1. 利益相反に関する指針と運用のための細則の策定の必要性とその
時期の検討

2. 利益相反に関する指針(案)と運用のための細則(案)、その他自己
申告書(案)の検討

活動の概要：『社団法人日本形成外科学会 臨床研究・基礎研究の利益相反に関する
指針』『社団法人日本形成外科学会 臨床研究・基礎研究の利益相反の取
り扱いに関する細則』、学会発表時のスライドあるいはポスターで用いる
利益相反自己申告の例(様式 1、2)、役員などの利益相反自己申告書(様式
3)、抄録提出時の自己申告による利益相反報告書、論文投稿時の自己申
告による利益相反報告書、それぞれの案を策定した。

1 2) 制度検討委員会

委 員 長：仲沢 弘明

委 員 員：島田 賢一、本田 隆司、村上 正洋、森岡 康祐、吉村 陽子

開催年月日：第 1 回メール委員会 平成 23 年 9 月 28 日

主 な 議 題：一般社団法人移行に向けての定款作成について(1)
開催年月日：第2回メール委員会 平成23年10月12日
主 な 議 題：皮膚腫瘍外科指導専門医施行細則第9条の改定について
開催年月日：第3回メール委員会 平成23年11月9日
主 な 議 題：専門医資格更新審査に関連した細則の改定について
開催年月日：第4回メール委員会 平成23年9月28日
主 な 議 題：一般社団法人移行に向けての定款作成について(2)
開催年月日：第5回メール委員会 平成23年12月2日
主 な 議 題：一般社団法人移行に向けての定款作成について(3)
開催年月日：第6回メール委員会 平成23年12月15日
主 な 議 題：一般社団法人移行に向けての定款作成について(4)
開催年月日：第7回メール委員会 平成23年12月26日
主 な 議 題：一般社団法人移行に向けての定款作成について(5)
開催年月日：第8回メール委員会 平成24年2月1日
主 な 議 題：一般社団法人移行に向けての定款作成について(6)
活動の概要：上記議題につき、検討を行なった。

13) 企画調査委員会

委 員 長：貴志 和生
委 員：岸邊 美幸、坂井 靖夫、菅原 康志、西野 健一、三川 信之
開催年月日：メール委員会を適宜行った。

主 な 議 題：1. 平成23年度科学研究費の申請状況ならびに採択状況
2. 形成外科診療班の実態調査

活動の概要：1. 申請(採択)状況につき、形成外科医育施設を中心とした68施設にアンケート調査を行い、51施設から回答が得られた。アンケート結果では、平成23年度の新規申請件数は195件、新規採択数は54件で、各々平成22年度に比べ増加傾向にあった。本結果は、日本形成外科学会ホームページ上に公開した。今後も調査を行う予定である。
2. 大学の中の形成外科診療班10施設に、診療班としての現在のメリット・デメリット、独立性の維持などにつきアンケート調査を行った。

13-i) データベース管理部会

部 会 長：木股 敬裕
担 当 理 事：貴志 和生
委 員：石田 有裕、今井 啓道、垣淵 正男、金子 剛、小林 正弘、
武石 明精、橋本 一郎、前川 二郎、村上 隆一、矢野 健二、
山野辺裕二、山元 康德、横井 克憲
開催年月日：全 体 会 議：①H23.4.14／②H23.10.6
システム会議：①H23.4.14／②H23.10.6／③H24.2.18-19

解 析 会 議：①H23. 6. 24-25／②H23. 12. 5

e-mail 委員会：30 回以上

- 主 な 議 題：1. 手術件数カウント見解の見直し
2. データインポート機能を備えた改訂版作成
3. 22 年次データの集計・検証作業
4. 22 年次データの検証結果による改訂案作成
5. 22 年次データの公表内容の検討
6. MacLion, Win7 対応の改訂版作成

- 活動の概要：1. 5 月：施設認定委員会へ手術件数カウント見解の要望書提出
2. 5 月：インポートシステムを入れた JSPS-CDB 改訂版配布
3. 12 月～24 年 1 月：22 年次データ集計・検証作業

○検証結果による問題点

- ・施設側 DB：副疾患や部品バグによる集計データ欠損
- ・事務局 DB：副疾患関係のデータ解析不能、同一日の手術認識不良、手術部位認識不良、“その他”の項目解析不能
- ・利便性：必須登録項目が多い（姓名や保険など）
- ・疾患分類や医療行為の現状との整合性の不一致

○以上の問題点を考慮し、24 年次に最低限の改訂作業
(25 年 1 月 1 日から改訂版の運用)

4. 24 年 1 月：MacLion, Win7 対応の改訂版配布
5. 23 年次施設認定結果

○2011 年度認定・教育関連施設の JSPS-CDB 利用率

全 体：433/437 (99.1%)

認 定 施 設：273/274 (99.6%)

教育関連施設：160/163 (98.2%)

○JSPS-CDB を利用していない 4 施設の理由

- ・MacOS の問題：1 (紙ベース対応)
- ・更新意思なし：2 (更新せず)
- ・人 手 不 足：1 (更新せず)

6. 22 年次データ解析公表について (スライドにて説明)

1 4) 将来計画委員会

委 員 長：亀井 譲

委 員：朝戸 裕貴、朝村 真一、上田 晃一、川上 重彦、清川 兼輔、
多久嶋亮彦、田中 一郎、三鍋 俊春、吉本 信也

開催年月日：平成 23 年 10 月 21 日

- 主 な 議 題：1. 関連領域の学会について
2. 二階建ての学会について
3. 特定領域指導専門医について
4. 名誉会員について
5. 危機管理マニュアル作成について

- 活動の概要： 1. 形成外科関連領域の学会が、口蓋裂学会、頭頸部癌学会、手の外科学会、創傷治癒学会とあるが、褥瘡学会と乳癌学会もその一つに加えるように進めていく方針を確認した。
2. 現在、日本形成外科学会の二階建ての学会として、頭蓋顎顔面学会と創傷外科学会があるが、美容外科学会をその一つに加えるかどうかを検討することになった。
3. 乳房再建指導専門医について検討することとなった。
4. 名誉会員となるための基準について再検討することになった。
5. 危機管理マニュアル作成委員会を作り検討することになった。

15) 医療安全推進委員会

委員長：内沼 栄樹

委員：岩平 佳子、高田 章好、根本 充、野平久仁彦、吉村浩太郎、

開催年月日：平成 23 年 10 月 7 日

主な議題： 1. 医療用医薬品機器の安全性に関する情報収集およびホームページを介した会員への情報提供

活動の概要： 1. 以下をホームページに掲載した。

- i) 再生・細胞医療に関する臨床研究から実用化への切れ目ない移行を可能とする制度的枠組みについて
 - ii) 医療ニーズの高い医療機器等に関する要望書の提出について
 - iii) 医療上必要性の高い未承認薬・適応外薬の第 2 回開発要望募集に係る総括表の提出について
 - iv) 「医薬品・医療機器薬事戦略相談事業の実施について
 - v) 医療機器の不具合等報告症例公表および活用について
 - vi) French High Authority on Health (HAS) 「non invasive lipolytic injections and machines」の判決について
 - vii) 医療機器業界における医療機関等との透明性ガイドライン策定のお知らせ
 - viii) 日常臨床及び特定健診・保健指導における HbA1c 国際標準化の基本方針及び HbA1c 表記の運用指針、HbA1c に関する送付資料の訂正
 - ix) ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針
2. 医療安全全国共同行動連絡会議出席（内沼委員長）
3. 日本医療安全調査機構臨時社員総会出席（内沼委員長）

15-i) 感染制御対策部会

部会長：大慈弥裕之

担当理事：内沼 栄樹

委員：市岡 滋、奥本 隆行、権太 浩一、高木 誠司

外部委員：森兼 啓太（山形大学病院感染制御部教授）、

高田 徹（福岡大学病院感染制御部教授）

開催年月日：①平成 23 年 4 月 14 日

②平成 23 年 10 月 6 日

メール委員会随時

主 な 議 題：創傷処置感染防止策の策定

活動の概要：創傷処置における感染予防を目的に、創処置感染防止対策案の作成作業を行った。（P37-40 資料参照）

1 6）専門医統括会議

委 員 長：平野 明喜

委 員：川上 重彦、楠本 健司、佐藤 兼重、鈴木 茂彦、中塚 貴志、
中西 秀樹、平林 慎一、細川 亙、吉本 信也

開催年月日：①平成 23 年 6 月 24 日

②平成 23 年 10 月 6 日

主 な 議 題：1. 専門医認定申請のための必要症例数の不足

2. 医療安全講習の義務化

3. 東日本大震災への対応

4. 特定領域指導専門医について

5. 他の診療科内形成外科診療班の取り扱い

6. その他

活動の概要：1. 専門医評価・認定機構の指摘を受けて専門医申請のために必要な症例数 300 症例とする。

2. 医師会や病院内で行われている医療倫理や医療安全講習会の受講を認め、今後は専門医認定や更新の資料として求める。

3. 専門医更新や認定施設更新などにおいて東日本大震災の影響を受けた場合は、理由書を提出してもらい、不利益を生じないように個々に判断する。

4. 他診療科内の形成外科診療班には早期独立をお願いする手紙を各病院院長名に出すこと、将来的にはこのような認定施設は認めにくいことが討議された。

5. 修練医のための研修手帳を専門医認定委員会に作成してもらうことにした。

6. 専認構が行っている認定施設のサイトビジットに形成外科も参加しており、各支部からサーベイヤーを派遣してもらった。

1 7）皮膚腫瘍外科指導専門医認定委員会

委 員 長：山本 有平

担 当 理 事：百束 比古

委 員：石原 剛、木村 中、清澤 智晴、黒川 正人、鈴木 健司、
竹内 正樹、田中 克己、堤田 新、寺師 浩人、中岡 啓喜、

中川 雅裕、林 礼人、 平林 慎一、古川 洋志、迎 伸彦、
元村 尚嗣、安田 浩、 吉龍 澄子

活動の概要：1. 専門医認定審査

【第1回開催】

日 時：2011(平成23)年10月5日(水)

※第20回日本形成外科学会 基礎学術集会前日

場 所：ハイアットリージェンシー東京5階

申請者数：10名(研修期間を満たしていない為、1名受験不可)

受験者数：9名

合格者数：9名

【第2回開催予定】

日 時：2012(平成24)年10月3日(水)

※第21回日本形成外科学会 基礎学術集会前日

場 所：ホテルリステル猪苗代

以後、基礎学術集会 開催時・・・年1回認定試験(口頭
試問)実施

2. 教育セミナー

【第3回開催(第20回基礎学術集会 開催時)】

日 時：2011(平成23)年10月7日(金)8:00-9:00

申込者数：45名

受講者数：44名

【第4回開催(第55回総会・学術集会 開催時)】

日 時：2012(平成24)年4月13日(金)8:00-9:00

申込者数：95名

以後、総会・学術集会および基礎学術集会 開催時・・・
年2回教育セミナー実施

【今後の予定】

日 時：2012(平成24)年4月(第55回総会・学術集会 開催時)

i) 中川 雅裕 頸部郭清術 20分

手術記録10例～提出例

ii) 田中 克己 悪性腫瘍：間葉系 20分

手術記録10例～提出例

iii) 安田 浩 母斑・良性腫瘍：間葉系 20分

手術記録10例～提出例

日 時：2012(平成24)年10月(第21回基礎学術集会 開催時)

i) 深水 秀一 病理組織の見方 20分

手術記録10例～提出例

ii) 吉龍 澄子 乳房外パジェット病 20分

手術記録10例～提出例

iii) 中岡 啓喜 血管腫、血管奇形 20分

手術記録10例～提出例

日 時：2013(平成24)年4月(第56回総会・学術集会 開催時)

- i) 石原 剛 単径郭清術 20 分
手術記録 10 例～提出例
- ii) 元村 尚嗣 腋窩郭清術 20 分
手術記録 10 例～提出例
- iii) 林 礼人 悪性腫瘍：付属器系 20 分
手術記録 10 例～提出例

3. 委員会

日 時：2012(平成 24)年 4 月 11 日(水)12:00-13:00

以後、総会・学術集会および基礎学術集会 開催時・・・
年 2 回委員会開催

- 4. 「皮膚腫瘍外科指導専門医施行細則 第 3 章 第 9 条 1)」改定
研修施設について
- 5. 「資格更新審査についての手引き」作成

18) 女性医師支援ワーキンググループ

委 員 長：吉村 陽子

委 員：舟山 恵美、森 文子、小川 智子、饗場恵美子、藤井海和子、
田邊 裕美、矢野 志春、山脇 聖子、徳永 和代、山下 理絵

開催年月日：メール委員会のみ

活動の内容：1. 委員の選任

理事長からの委員会立ち上げ提案を受け、各医育機関の形成外科責任者に、適任者の推薦を依頼。委員長が上記 10 名を選任、理事会の承認を得た。

- 2. 第 55 回日本形成外科学会総会・学術集会に企画されていた女性向けセミナー(twilight champagne)への支援

山下委員が企画中であった上記催しを、女性医師支援ワーキンググループとして支援し、会場での女性会員に対するアンケートを計画。内容についてメールで討議した。

日本形成外科学会創傷処置感染防止対策(案)

創傷処置における感染防止策

はじめに

平成 20 年、福岡大学病院において多剤耐性アシネトバクター(*Acinetobacter baumannii*) 菌による院内感染が発生した。平成 21 年には帝京大学病院において同菌検出症例の集積が認められた。本菌や多剤耐性緑膿菌など問題となる耐性菌の多くは環境菌であり、リザーバーと呼ばれる保菌者や環境に長期間生存し、医療者や環境など複数のルートを通じて感染伝播される。形成外科医は創傷を扱う機会が多く、とくに褥瘡や糖尿病性足潰瘍などの慢性創傷は易感染性で、あきらかな感染徴候が無くても創部に細菌が定着している場合が多い。私たちは日常行っている創傷処置を介して感染が伝播されることがないように、細心の注意を払わなければならない。

日本形成外科学会では、創処置における感染予防を目的に委員会を立ち上げ、感染防止策を策定することにした。手指衛生や手袋・ガウン着用などの基本的な感染対策である標準予防策や接触予防策については、各施設での感染対策マニュアルにしたがっていただくこととした。本感染予防策では創傷処置の際に必要な手順を具体的に示した。創傷処置は感染リスクの程度により、【閉鎖創・非感染創】と【感染リスクのある創・感染徴候のある創】に分け、後者に関しては先制攻撃的感染制御(preemptive infection control)の方針とした。

平成 24 年 月 日

日本形成外科学会

理事長 平野 明喜

日本形成外科学会感染制御部会

委員長 大慈弥 裕之

委員 市岡 滋

権太 浩一

奥本 隆行

高木 誠司

特任委員 森兼 啓太 (山形大学病院 感染制御部教授)

高田 徹 (福岡大学病院 感染制御部教授)

担当理事 内沼 栄樹

包交創傷処置手順 1

【閉鎖創 (手術創・縫合創など)・非感染創 (感染徴候がなく体液飛散の可能性が少ない開放創など)】

	処置実施者	介助者
1. 手順 (役割分担) の確認	- 創に直接触れる - 創処置 (消毒・ドレッシング貼布) を実施する	- 衛生材料、清潔器材を医師に渡す - 終了後の片付け
2. 必要物品の準備	消毒薬含浸綿棒もしくは綿球 (消毒薬を入れて)	

日本形成外科学会創傷処置感染防止対策(案)

⇒包交前に確認	・ ピンセット ・ ドレッシング材（ガーゼもしくはフィルム型ドレッシング） ・ 絆創膏、テープ類（可能であれば患者のベッドサイドに袋に入れて保管：個別使用の徹底） ・ 使用済み綿球、ガーゼ等の廃棄物を入れるビニール袋	
3. 防護具の着用	・ 手指衛生（流水と石鹸の手洗いもしくは手指消毒）⇒手袋着用	
4. 包交処置の実際	1) ドレッシングを剥がす 2) 創の消毒（感染のない縫合創は原則として消毒は不要） * 滲出液がある場合は、1 個目の消毒綿球で拭き取る⇒2 個目の綿球で消毒 * 創が複数ある場合は、滲出液のない創あるいは閉鎖創⇒滲出液がある創を行う（創の清潔度を考慮する） * CV カテーテル挿入部の処置を同時に行う場合は、挿入部の処置を行った後に創処置を行う 3) ドレッシング貼布（必要に応じて、軟膏類塗布、包帯固定）	1) 清潔器材（ピンセット・消毒綿球）を渡す * 特殊な絆創膏等を使用する場合、必要な長さを予め切っておく（はさみは必要に応じて病棟で準備する） * 上記の場合は定数管理とする 2) 絆創膏跡の観察、必要に応じて創周囲の皮膚清拭、掻痒感がある場合の対応 3) 患者の寝衣を整える（必要に応じて腹帯巻きなおし）
5. 片付け	1) ごみ袋（感染性廃棄物）を所定の廃棄物容器（病室に F ごみ容器があれば F ごみ容器へ、もしくは病棟で準備している包交回診用廃棄容器に廃棄する 2) 使用した器材は所定の専用容器に入れる * 包交処置中に器材を落とす等で汚染した患者の周辺環境箇所は消毒薬含有環境クロスで清拭する	
6. 防護具の脱衣	・ 手袋を外す（エプロンを着用の場合、手袋を外したあとにエプロンを外す）	
7. 手指衛生	・ 手指衛生（流水と石鹸の手洗いもしくは手指消毒）	

日本形成外科学会創傷処置感染防止対策(案)

包交創傷処置手順 2

【感染リスクのある創（熱傷、褥瘡などの開放創）・感染徴候のある創】

	処置実施者		介助者	
	処置実施者 A	処置実施者 B (必要に応じて)	介助者	物品担当者
1. 手順(役割分担)の確認	・ 創の直接処置	・ 処置実施者 A の介助	・ 患者の体位調整 ・ 洗浄等の処置介助 ・ 汚染器材の取り扱い	・ 清潔器材を渡す (創処置を行っている間は患者に直接触れない、汚染器材に触れない)
2. 必要物品の準備 ⇒包交前に確認	清潔器材用台車(ワゴン) - 消毒薬含浸綿棒もしくは綿球(消毒薬を入れて) - ピンセット - ドレッシング材(ガーゼもしくはフィルム型ドレッシング) シングルパッド - 絆創膏。テープ類(患者のベッドサイドに袋に入れて保管: 個別使用の徹底) - はさみ - 防水シート、包帯、紙おむつ(患者の状況に応じて) 不潔器材用台車(ワゴン) - 使用済み綿球、ガーゼ等の廃棄物を入れるビニール袋 - 使用済み器材(ピンセット、鋼製小物等) 入れ容器 - 環境清拭消毒薬含有クロス			
3. 防護具の着用	1) 手指衛生(流水と石鹸の手洗いもしくは手指消毒) 2) ビニールエプロンもしくはアイソレーションガウン(創の大きさ、洗浄の有無により袖なし袖付か防水性か選択)を着用する * ゴーグル、マスク、キャップ等は滲出液、体液が飛散する可能性がある場合、必要に応じて着用する 3) 手袋着用(*手袋は最後に着用)			左記 1) 準じる 2) は袖なしビニールエプロン着用 3) 手袋着用
4. 包交処置の実際	1) ドレッシングを剥がす(処置実施者 A) 2) (必要時) 創の洗浄(処置実施者 A) 介助(介助者) 3) 洗浄後、周辺の皮膚をアルコール綿、もしくは温タオルで清拭実施(処置実施者 B もしくは介助者) 4) ドレッシング貼布(必要に応じて軟膏塗布)(処置実施者 B もしくは介助者) * 滲出液がある場合は、1 個目の消毒綿球で拭き取る⇒2 個目の綿球で消毒 * 創が複数ある場合は、滲出液のない創あるいは閉鎖創⇒滲出液がある創を行う(創の清潔度を考慮する) * 必要に応じて手袋を交換する(便・尿等の排泄物を取り扱った後等)			・ 清潔器材(ピンセット・消毒綿球)を渡す * 特殊な絆創膏等を使用する場合、必要な長さを予め切っておく(はさみは必要に応じて個別化(使用中止後は洗浄、消毒) ・ 包交処置中は

日本形成外科学会創傷処置感染防止対策(案)

	* CV カテーテル挿入部の処置を同時に行う場合は、挿入部の処置を行った後に創処置を行う ドレッシング貼布（必要に応じて、軟膏類塗布、包帯固定）	患者に触れない
5. 片付け	1) 手袋を交換し、患者の体位、寝衣を整える 洗淨液、体液が飛散した場合はエプロンも交換する 2) ごみ袋（感染性廃棄物）を所定の廃棄物容器に廃棄する 3) 使用した器材は所定の専用容器に入れる * 汚染した患者の周辺環境箇所（ベッド柵、床頭台、オーバーテーブル等）はアルコール含有環境クロス（ショードック）で清拭する	
6. 防護具の脱衣	1) 手袋を最初に外す 2) ビニールエプロン、アイソレーションガウン（マスク、ゴーグル、キャップ）を外す	
7. 手指衛生	・ 手指衛生（排泄物、体液等に触れた場合は流水と石鹼で手洗いを行ったあと、手指消毒を行う）	

<参考文献>

- 1) http://www.cdc.gov/ncidod/dhqp/gl_isolation.html, <http://www.cdc.gov/ncidod/dhqp/pdf/guidelines/Isolation2007.pdf>
- 2) 満田年宏訳・著：隔離予防策のための CDC ガイドライン医療環境における感染性病原体の伝播予防 2007；
- 3) 医療施設における院内感染の防止について（平成 17 年 2 月 1 日医政指発第 0201004 号）
- 4) 竹股喜代子編集日本看護協会教育委員会監修：看護場面における感染防止.2007.8-23
- 5) 坂本史衣;基礎から学ぶ医療関連感染対策標準予防策からサーベイランスまで.2008.7-23.
- 6) 橋本丈代；福岡大学院内感染対策マニュアル（追補）創処置感染対策マニュアル